

岡山県 西粟倉村
防災ガイドブック

ハザードマップ
付き

～今すぐ備える～

西粟倉式 防災 GUIDE

「わたしたちに今できること」



西粟倉村
防災ポータル
雨量や河川状況を
チェックできます



はじめよう わたしたちに今できるコト

住まいや生活、

大切なものを一瞬で奪う自然災害。

もしものときのために、

今、わたしたちにできる「コト」を考え、

災害に備えましょう。



自助



共助



公助

災害が起きたとき、行政等による支援(公助)は、一人ひとりに対する初期の対応が難しく、ある程度時間がかかるとされています。自分や家族の身を守るためには、防災グッズの用意や避難の心得などによる自分の力(自助)と隣近所で助け合う地域の力(共助)が重要です。

目次／CONTENTS

1

災害から学ぶ

- 西栗倉村を知って、備える P.4
- 避難の判断と流れ P.6

2

災害を知る

- 大雨・土砂災害 P.8
- 台風・洪水 P.10
- 地震・火災 P.12

3

知っておきたい防災情報

- 避難する際のポイントとは? P.14
- 土砂災害から身を守る3つのポイント P.15
- 避難所でのルールとマナー P.16
- 要支援者への理解と思いやり P.17
- みんなで備える防犯対策 P.18
- 考えたいみんなのコト P.19

4

ハザードマップ

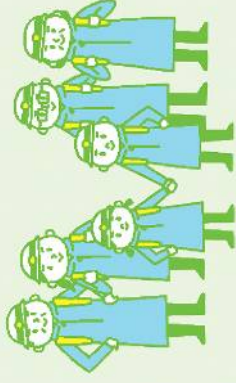
- ハザードマップの使い方・エリア別掲載ページ P.20
- 各エリアのハザードマップ P.22

5

その他情報

- 家族と話そう!旧頃からの備えと確認事項 P.68
- 事前・災害時の情報収集 P.70
- 安否確認 P.71

西栗倉村を知って、備える

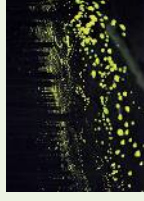


●西栗倉村の自然環境

西栗倉村は、総面積の95%が緑に囲まれ、村の中心を吉野川が流れる自然豊かな村です。

一方で、峡谷となっており、山治い・川治いに集落

が点在しているため、土砂災害や洪水の危険と隣り合わせで生活をしています。また、地質は、村の東側を除く大半は花崗岩でできており、火山岩等と異なり、造岩鉱物の粒が大きい。気温の変化に対する崩壊が起こりやすく、土砂流出の危険は大きいといえます。



●平成30年7月豪雨
土砂流出
(村道堤谷線・黄金泉前)



●平成30年7月豪雨
路体崩壊
(村道浅津知社線)



●平成30年7月豪雨
路体崩壊(村道堤谷線)



●平成30年7月豪雨
土砂流出
(堤谷川・村道浅津知社線)

●平成30年7月豪雨災害(平成30年7月5～7日)

非常に活発化した梅雨前線が西日本付近に長期間停滞したことによって広範囲で記録的な大雨となった。村にも線状降水帯による大雨が5日夜～7日にかけて降り続き、幸いにも死傷者はいなかったが各地で被害を受けた。

平成16年から令和2年の間に
西栗倉村で発生した主な災害



●平成30年7月豪雨
土砂流出(村道大茅線)



●平成30年7月豪雨
護岸崩壊(村道金谷線)



●平成30年7月豪雨
土砂流出
(国道373号・天岡付近)



●平成30年7月豪雨
路体崩壊(村道あわくら線)



●平成30年7月豪雨
路面崩壊(村道あわくら線)



●平成30年7月豪雨
土砂流出(村道引谷後山線)



●平成30年7月豪雨
護岸崩壊(国道373号・待避所)



●平成28年1月23～25日
大雪による渋滞
(坂根～影石地区)

氷点下12℃以下の強い寒気が西日本の上空に流れ込み、中国山地を中心に大雪となった。この雪により鳥取自動車道が通行不能となり志戸坂トンネルから西粟倉ICの南まで車両が渋滞していた。長時間解消されないことから救援物資を配布する程の事態となった。自分是对策していても雪道対策をしていない車両に挟まれ身動きが取れない車両に妨げられて入れない等、不測の事態が発生した。



●平成16年 台風23号
風倒木(村内全域)

奈義町で最大瞬間風速51.8m/sの広戸風が発生し、本村も村内各地で風倒木の被害にあった。特にダルガ峰一帯の被害が顕著だった。

避難の判断と流れ

災害が発生する危険が高まった場合に、区域と対象者を示して避難情報を発令します。また、避難情報は災害発生
の危険度を直感的に理解し避難行動が取れるように、5段階の「警戒レベル」を用いて伝えられます。

警戒レベル	村からの避難情報	住民がとるべき行動
5	緊急 安全確保	命を守るための 最善の行動を!!
警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難!!		
4	避難指示	全員 避難
3	高齢者等 避難	高齢者等 は避難 他の住民は準備
2	大雨・洪水・ 高潮注意報 (気象庁)	避難に備え、 ハザードマップなどにより 自らの避難行動を確認
1	早期 注意情報 (気象庁)	災害への 心構えを高める

※ 警戒レベル5「緊急安全確保」は、村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、必ず発令される情報ではありません。

災害情報の入手

テレビやラジオ、インターネットなどを通して最新の情報を入手しましょう。



テレビのdボタン（データ放送の使い方）

リモコンについているdボタンを押せば、気象情報や災害情報などの情報を見ることができず。
普段から天気予報などを見て、使い慣れておきましょう。

データ放送で
取得できる情報

- 気象情報
- 災害情報
- 避難所開設情報
- 交通情報
- ライフライン情報

など

1 dボタンを
押す
dボタンの位置や表記
は機種によって異なり
ます。

2 矢印ボタンで
項目を選ぶ
データ放送画面では、必要な
情報を一瞬として見ることが
できます。

dMIX 岡山 7/1(日)0:00

気象情報	災害情報	交通情報	スポート	ドラマ	オンライン
1	2	3	4	5	6

NEWS

外出時はワンセグが便利です
インターネット障害が発生してい
ても情報が届きます。

情報伝達の流れ

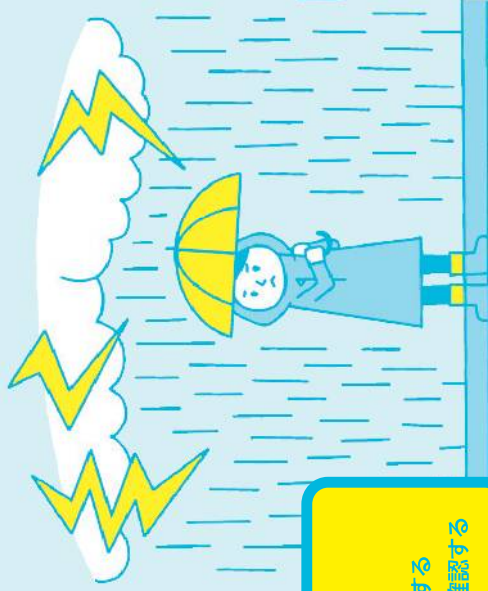


大雨

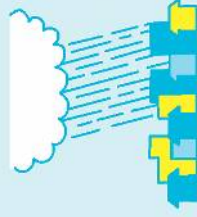
近年、局地的大雨や集中豪雨による災害が増えています。情報をいち早く把握し、早めの避難を行うことが重要です。

とるべき行動

- 危険な場所に近づかない
- 避難指示で速やかに避難する
- 防災マップで危険箇所を確認する

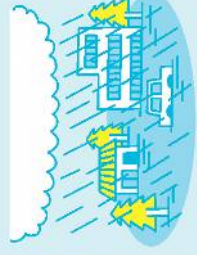


局地的大雨



夏場などに大気の状態が不安定となって積乱雲が発達し、短時間に狭い範囲で激しく降る雨。雨雲の発生から雨が降るまでが短く、「ゲリラ豪雨」と呼ばれ、事前の予測が困難です。

集中豪雨



梅雨前線の停滞や低気圧などにより、同じ場所に数時間にわたって降る大雨。総雨量が数100mmに達することがあり、河川の氾濫や土砂災害を引き起こします。

大雨の多い時期

季節の変わり目で梅雨前線や秋雨前線が停滞するころ。また7月から10月にかけて台風の接近が多くなるころです。

二次災害

ある時間において副次的に発生する災害のこと。大雨の後には、けがけ崩れや地すべり、土石流が懸念されます。

降雨量の単位

「mm」で表記され、「1時間に100mmの降雨量」は、1時間に水深10cmになります。50mm以上で多くの災害が発生します。

土砂災害

集中豪雨や台風が原因で起こることが多く、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪う災害。すさまじい破壊力を持つ土砂が流れます。

とるべき行動

- 雨量の情報や前兆現象に注意する
- 早めに土砂災害危険箇所から外に出る
- 避難場所への避難が難しい場合は、建物の2階以上の部屋へ移動する



がけ崩れ



雨水の浸透や地震によって、山の斜面が崩れ落ちる現象。突然発生し、崩れるスピードが速いです。

地すべり



地下水の水位が上がり、地面の一部がすべり落ちる現象。被害が広範囲に及ぶ可能性があります。

土石流



山や谷の石や土砂が大雨によって下流へ押し流される現象。猛烈な速さで家屋などを飲み込みます。

前兆現象

崖崩れでは斜面から水が湧き出る、地すべりでは地面に亀裂や段差が生じる、土石流では流木が流れてくることがあります。

土砂災害危険箇所

土砂災害が発生するおそれがある箇所のことで、土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域があります。

土砂災害警戒情報

大雨警戒が発表されている状況で、大雨による土砂災害のおそれが高まったときに発表されます。

台風

7月から10月にかけて多く上陸する台風。猛烈な風や雨は、風水害や土砂災害などの原因となり、深刻な被害を与えます。

とるべき行動

- 家の周りにあるものを固定もしくは移動する
- 家の窓ガラスや雨戸などを補強する
- 浸水に備えて家員を安全な場所に移動する

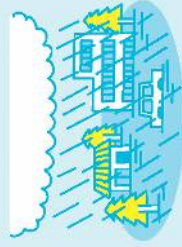


注意報



大雨や強風によって災害が起こるおそれがあることを注意する予報。

警報



重大な災害が起こるおそれがある際に発表されるもの。必要に応じて速やかに避難しましょう。

特別警報



数十年に一度しかないような重大な災害の危険が差し迫っている場合に発表されます。

熱帯低気圧

熱帯または亜熱帯地方で発生する低気圧の総称。発達すると台風になります。

台風の「目」

台風の中心付近の風が弱く雲が少ない部分。半径は一般的に10～40kmに及びます。

強風域と暴風域

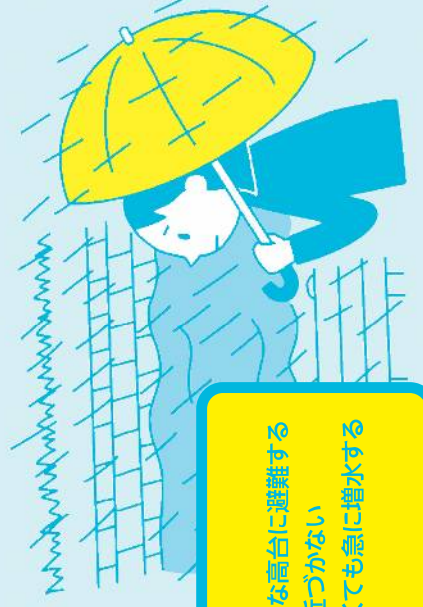
強風域は風速15m/s以上、暴風域は風速25m/sの風が吹く領域を指します。

洪水

大雨などによって河川の水が増加し、溢れ出すこと。主に6月～7月の梅雨の時期や7月～10月の台風の時期に発生しやすいです。

とるべき行動

- 河川の近くから離れ、安全な高台に避難する
- 増水した河川には決して近づかない
- その場で雨が降っていないにもかかわらず急に増水することがあるので注意する



浸水・冠水



浸水とは、家などの物が徐々に水に浸かってしまう状態を指し、冠水とは田畑や作物、道路などの広範囲の土地に関するものが水をかぶった状態を指します。

河川の氾濫・決壊



氾濫とは、河川の水位が上昇し、堤防を越えて水があふれ出ることを指し、決壊とは、河川やダム、ため池の堤防が壊れて水があふれ出すことを指します。

急な増水

わずか10分で川の水位が急上昇し、人が亡くなった事例もあるため、少しでも異変を感じたら河川から離れましょう。

離れた場所からの洪水

自分のいる場所が晴れていても、河川の上流で大雨が降ると、下流で急に増水することがあるため、注意しましょう。

河川水位情報

国土交通省や気象庁、自治体から発表される各観測所の水位と洪水予報の状況をお知らせします。

地震

近い将来、高い確率で発生すると予測されている巨大地震。いざというときの知識と備えが今必要です。

とるべき行動

- 落ち着いて自分の身を守る
- 揺れがおさまったら火の始末をする
- 電気のブレーカーを切る
- ドアを開けて逃げ道を確認する



海溝型地震



陸側のプレートの下に海側のプレートが沈み込み、陸側のプレートが跳ね上がる地震。近年では東日本大震災が海溝型地震にあたり、震源は海の中である場合が多いため、海に近い場所にいる際は巨大大津波に警戒する必要があります。

震度とマグニチュード

震度は地震の揺れの大きさを表し、マグニチュードは地震そのものの大きさ(規模)を表します。

緊急地震速報

地震発生直後、強い揺れの到達時刻や震度を予測し、可能な限りすばやく知らせる情報のこと。

液状化現象

地震が発生した際、振動によって地下水の圧力が高くなり、地盤が液体状になる現象のこと。

直下型地震



内陸型地震とも呼ばれ、活断層のズレによって発生する地震。震源が浅い場合は局地的に激しい揺れを伴う場合があり、阪神・淡路大震災や熊本地震、大阪北部地震が直下型地震でした。本村でも、山崎断層による地震が懸念されています。

火災

調理機器やタバコ、暖房機器を原因とした火災が毎年多くの一般家庭で発生しています。火が小さいうちに消す初期消火が重要です。

とるべき行動

- 火災発生時は、速やかに119番通報する
- ハンカチで口や鼻をおさえ、低姿勢で避難する



住宅火災



出火原因の多くは調理機器やタバコまたは暖房機器の火の不始末です。出火を未然に防ぐよう心がけるとともに、住宅用火災報知器が確実に機能しているかチェックしておきましょう。

火災報知機

火災による煙や熱を早期に自動的に感知し、警報ベルなどで建物内の人たちに火災発生を知らせる設備。

収れん火災

ビンなどのレンズ状の物が、太陽光を反射屈折させ集中した光が当たった可燃物が発火することによって起こる火災。

林野火災



毎年冬から春にかけて多く発生します。落ち葉が地面に積もっており、風が強く乾燥状態が続くことが原因です。山菜採りなどで入山する場合は、火の取り扱いには十分注意しましょう。

初期消火

消火器などで、自分の身長未満の小さな火を消すこと。台所など、火を取り扱う場所には消火器を設置しておきましょう。

避難する際のポイントとは？

○避難する前に・・・

移動は安全を保ちながら

底が厚くてひもでしめられる運動靴をはき、長い棒で足元を確認しながら歩きましょう。



持ち物は最小限に

荷物は最小限にして背負い、両手使えるようにしましょう。



○車中泊も検討を

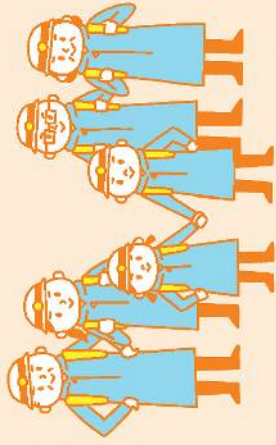
避難グッズの準備

災害時は避難所の状況等により、車中泊も考えられます。そのため、車にも防災グッズを常備しておきましょう。



車中泊での注意事項

エンジンをかけたまま車中泊をすると、エンジンの排気ガスが車内に入り込み、一酸化炭素中毒に陥る危険性があるため注意しましょう。
また、長時間座っていることで、エコノミークラス症候群を発症する危険性もあるため、適度に体を動かすなど予防に努めましょう。



水辺に近づかない

川や用水路には絶対に近づかないようにし、橋もななるべく避けましょう。



声かけなどの協力を

避難する際は、近所への声かけなど、自分ができる範囲で防災・減災へ協力しましょう。



燃料のキープを

災害時に車の燃料を入れることは困難となるため、夏場・冬場のエアコン等も考慮し、燃料は常に半分以上はキープしておきましょう。



土砂災害シミュレーション

土砂災害から身を守る3つのポイント

梅雨前線や秋雨前線、台風などの影響で、近年、大雨や集中豪雨による土砂災害が多発しています。最新の気象情報を常に確認し、災害から身を守ることが大切です。

Point 1



地図を活用する

日頃から家族等で避難場所や道順をあらかじめ決めておきましょう。

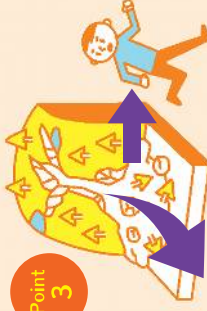
Point 2



予報・雨に注意

テレビやwebから最新の情報をいち早く入手し、避難もしくは準備しましょう。

Point 3



直角に逃げる

土石流等は速度が速いため、土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

深夜に土砂災害が起きそうだったら

夜間の豪雨時など避難路が安全かわからない時は、屋外での移動は極力避け、2階以上の斜面と反対の部屋に避難しましょう。



防災コラム

浸水が30cmに達すると大人の力でもドアを開けることが難しくなります

浸水10cm

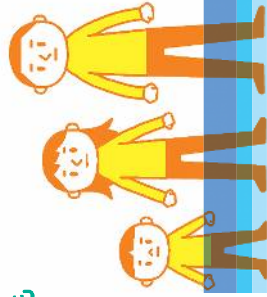
濁った水で側溝などの位置がわからにくく、転落のおそれがあります。

浸水20cm

水の流れが早いので、足を踏まわけて転倒する可能性があります。

浸水50cm以上

大人のひざまで浸かる程度で歩行は困難になり、おぼれる危険があります。



避難所でのルールとマナー

プライバシーに配慮する



集団生活ではプライバシーへの配慮やマナーが大切です。特に居住スペースは個々の家と同じで、無断で入らないようにしましょう。また、更衣室など共同で使用するものは、正しく利用することが集団生活のマナーです。

感染症予防の徹底を



避難所ではマスクの着用、手洗い、咳エチケットなどの基本的な感染症対策をはじめ、定期的な換気、こまめな除菌、居住スペースの十分なスペースの確保・段ボール等での仕切りなどの感染症予防を徹底しましょう。

ルールを守り、協力する



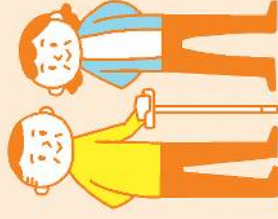
ゴミ捨てや消灯時間、物を受け取る順番など、避難所ごとのルールやマナーを守りましょう。また、割り当てられた仕事だけでなく、得意なことを進んで行い、助け合いながら生活しましょう。

複数の避難先を用意



感染症対策として、密にならないよう自治体の避難場所以外にも避難する場所を探しておきましょう。例えば、親戚・知人宅をはじめ、ホテル・会社など、災害に強く、被害が及ぶにくい場所を日頃から用意しておきましょう。

要支援者への理解と思いやり



高齢者

高齢者は不便なことがあるても我慢するなど、自分から言い出せないことがあります。困りごとやお手伝いすることはないかなど、やさしく声をかけましょう。



子ども

子どもは大人と違い、不調を訴えることができなかったり、うまく感情を表現できなかったりします。常に気を配り、小さな異変にも気づくようにしましょう。



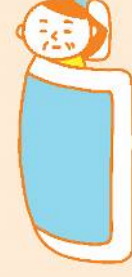
女性・妊産婦

女性は着替えの問題、妊娠中や産後まもない頃には、授乳や健康面についての課題があり、プライバシー等への配慮が必要です。



外国人・LGBTQ

外国人や性的少数者は、文化や性の違いから様々な配慮が必要となります。多様性を受け入れ、避難時および各避難所で孤立させないよう対策しましょう。



要介護者

避難所生活では、体が不自由な要介護者は、一層の困難を強いられます。常用している薬の有無を始め、外部のケアサービスの必要がないかなどを確認しましょう。



障がい者

環境の変化で心身の不調を起こすことがあるほか、外周からは援助を必要としていることがわからないことも。ヘルプマークを身に付けていないかなど、気を配りましょう。

みんなで備える防犯対策

災害時には、混乱に乗じて犯罪が増える傾向にあります。女性や子ども、高齢者などを狙った性犯罪や暴力などの被害に合わないためにも、意識と行動を心がけましょう。

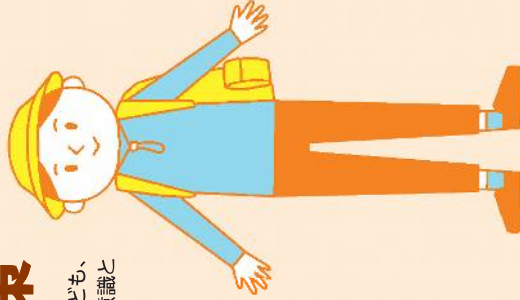
複数人で行動して 一人にならない

単独での行動は可能な限り避けましょう。避難所から離れる際にも家族や友人などと行動を共にしましょう。また、トイレや着替えをする場合は、見張りを立てるなど少しでも危険を減らしましょう。



おしゃれよりも 安全重視の服装を

災害が起きた現場は何が起るかわからない可能性があります。危険を防ぐためにも見た目より安全面や機能面を重視した服装にしましょう。



突然の訪問者には 要注意!

災害に便乗し、詐欺や悪徳商法など不安につけこんだ犯罪を考える人もいます。突然の訪問者が来てもすぐ家に入らず身分証明書などを確認するなど慎重に行動しましょう。



普段から 防犯グッズを持つ

いざというときに備えて、普段から防犯ブザーやホイッスルなど大きな音が簡単に出来るものを持つようにしましょう。

考えたいみんなのコト

要支援者への配慮が不足すると、犯罪が増加することもあります。日頃から要支援者固有のニーズを把握し、避難所運営にも生かすことが重要です。



専用更衣室の設置

避難所では、着替えをする場面で困ることがあるので、更衣室を設置しましょう。



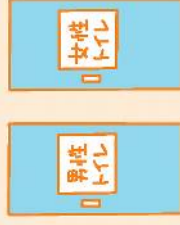
間仕切りなどによる プライバシーの確保

避難者のスペースには簡易の壁を設置するなどして、プライバシーを確保しましょう。



男女別のトイレ

男女別トイレを設定するとともに、男性用に比べて湿みやすいことから、女性用のトイレを多く配置しましょう。



女性用品の常備

支援物資に含まれていても数が足りないことのないように常備しましょう。また、受渡しは女性が好ましいです。



管理責任者に 男女両方を配置

男女双方を配置し、男女の意見や相談が受けられる体制としましょう。



男女問わず 役割分担

性別による決めつけで役割ではなく、適材適所で運営しましょう。



子どもの 遊びスペースの確保

可能であれば、子どもが遊べるスペースを用意しましょう。



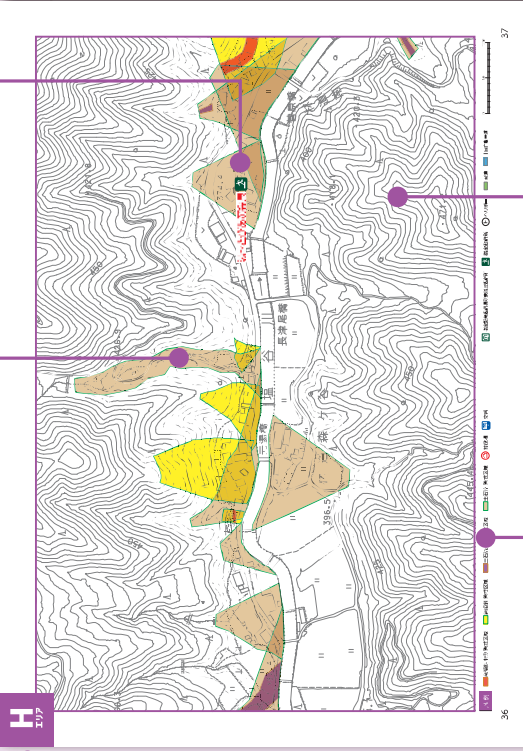
ハザードマップの使い方

ここからは、地域ごとの詳細なハザードマップを掲載しています。
お住まいの地域の災害危険箇所を把握し、避難所までのルートなどを検討しましょう。

エリア毎に区切って掲載
※エリアの範囲はP21を参照

危険区域を色分けで表示

避難所や主な公共施設を掲載



地図上の施設などを
ピクトグラムで掲載

避難ルートなども書き込める
1/2500サイズで掲載

項目	説明	分類	凡例
土砂災害警戒区域	がけ崩れや土石流、地すべりなどの土砂災害が発生するおそれがある区域で、発生した場合に住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域	急傾斜地の崩壊 土石流	 
土砂災害特別警戒区域	警戒区域のうち、災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域	急傾斜地の崩壊 土石流	 



1 自分の家の危険度を知ろう

自宅周辺の浸水想定や土砂災害の危険を確認し、災害時にどう行動すれば被害を最小限におさえられるか検討しましょう。



2 避難所、避難ルートを確認しよう

避難所は、集会所・いきいきふれあいセンター、小学校、その他の公共施設の順に開設します。

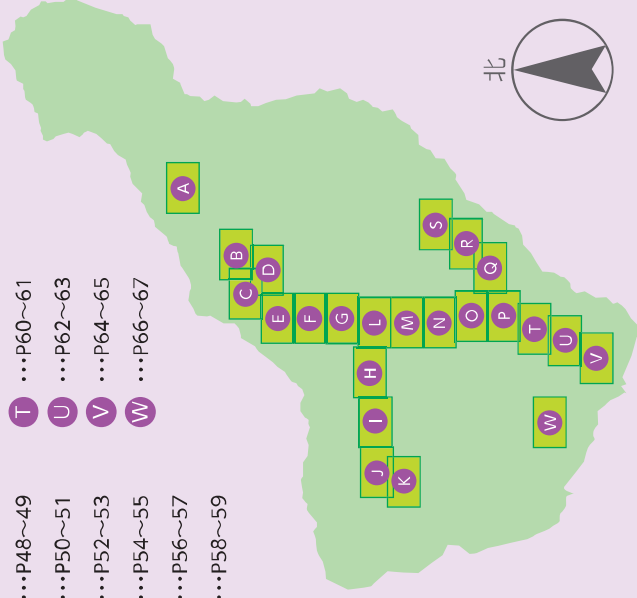


3 必要な備えをしよう

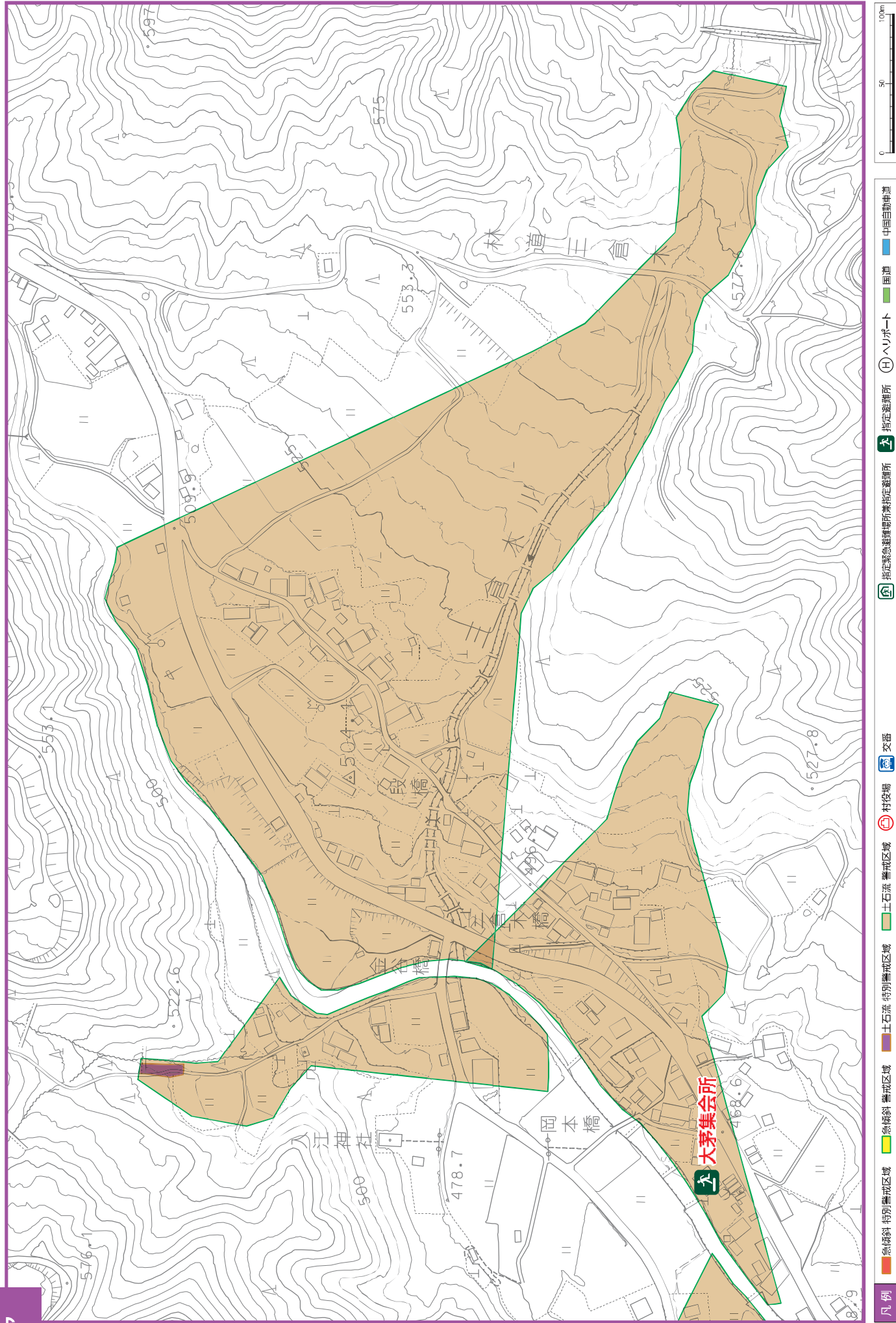
非常用持ち出し袋の自身や、備蓄品などの備えを行いましょう。また、家の中での置き場所なども検討しましょう。

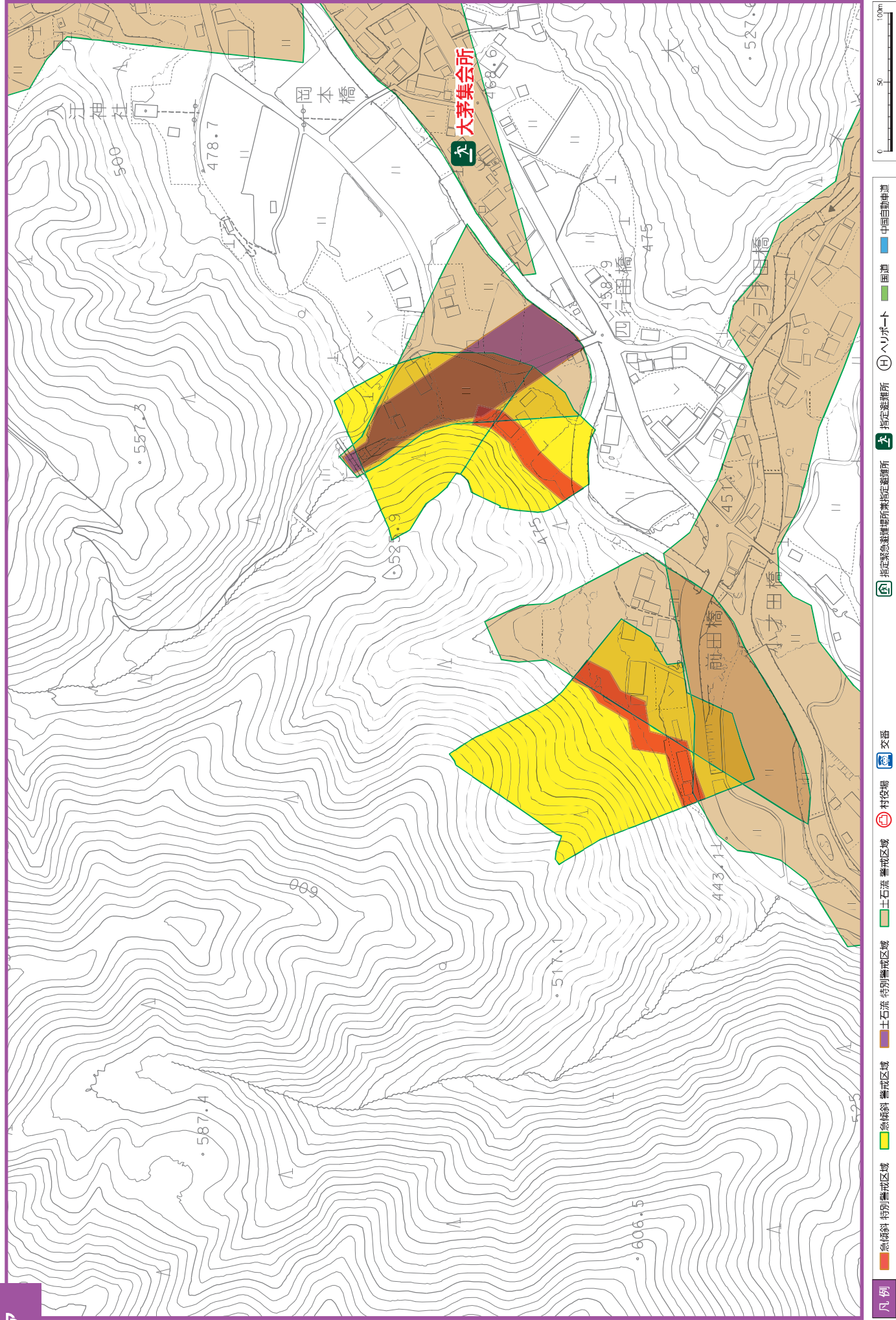
エリア別掲載ページ

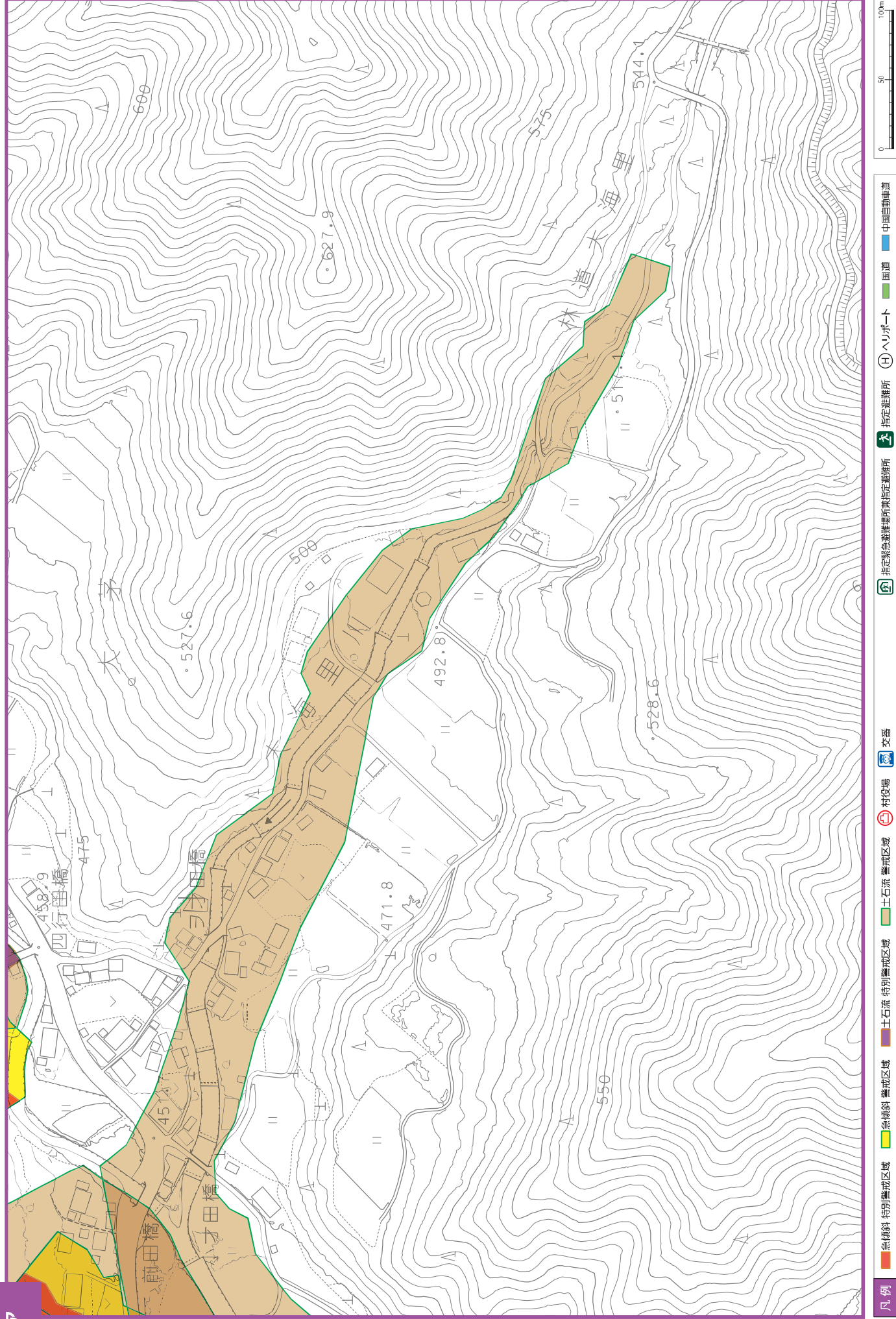
- A ...P22~23
- B ...P24~25
- C ...P26~27
- D ...P28~29
- E ...P30~31
- F ...P32~33
- G ...P34~35
- H ...P36~37
- I ...P38~39
- J ...P40~41
- K ...P42~43
- L ...P44~45
- M ...P46~47
- N ...P48~49
- O ...P50~51
- P ...P52~53
- Q ...P54~55
- R ...P56~57
- S ...P58~59
- T ...P60~61
- U ...P62~63
- V ...P64~65
- W ...P66~67



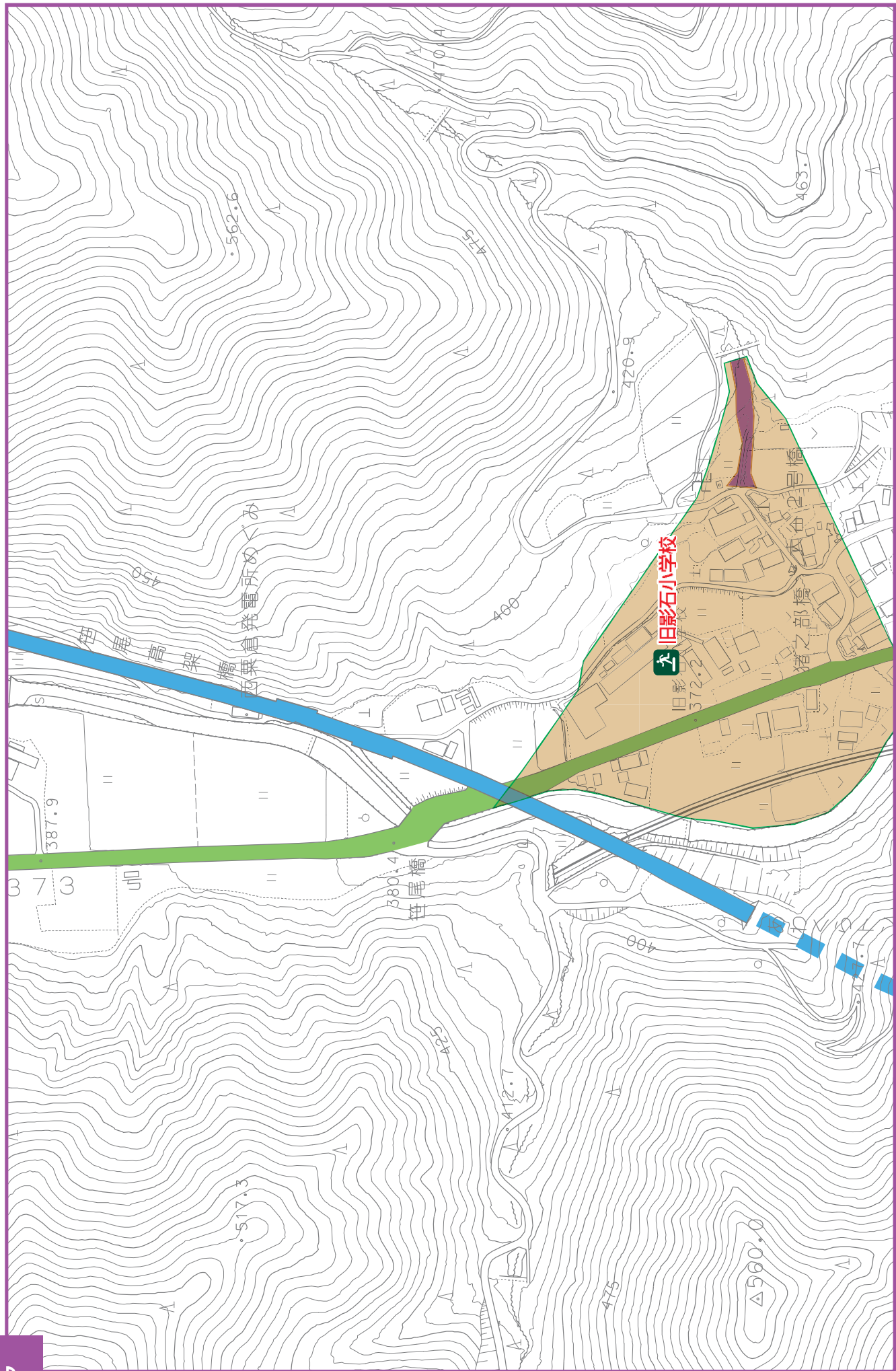


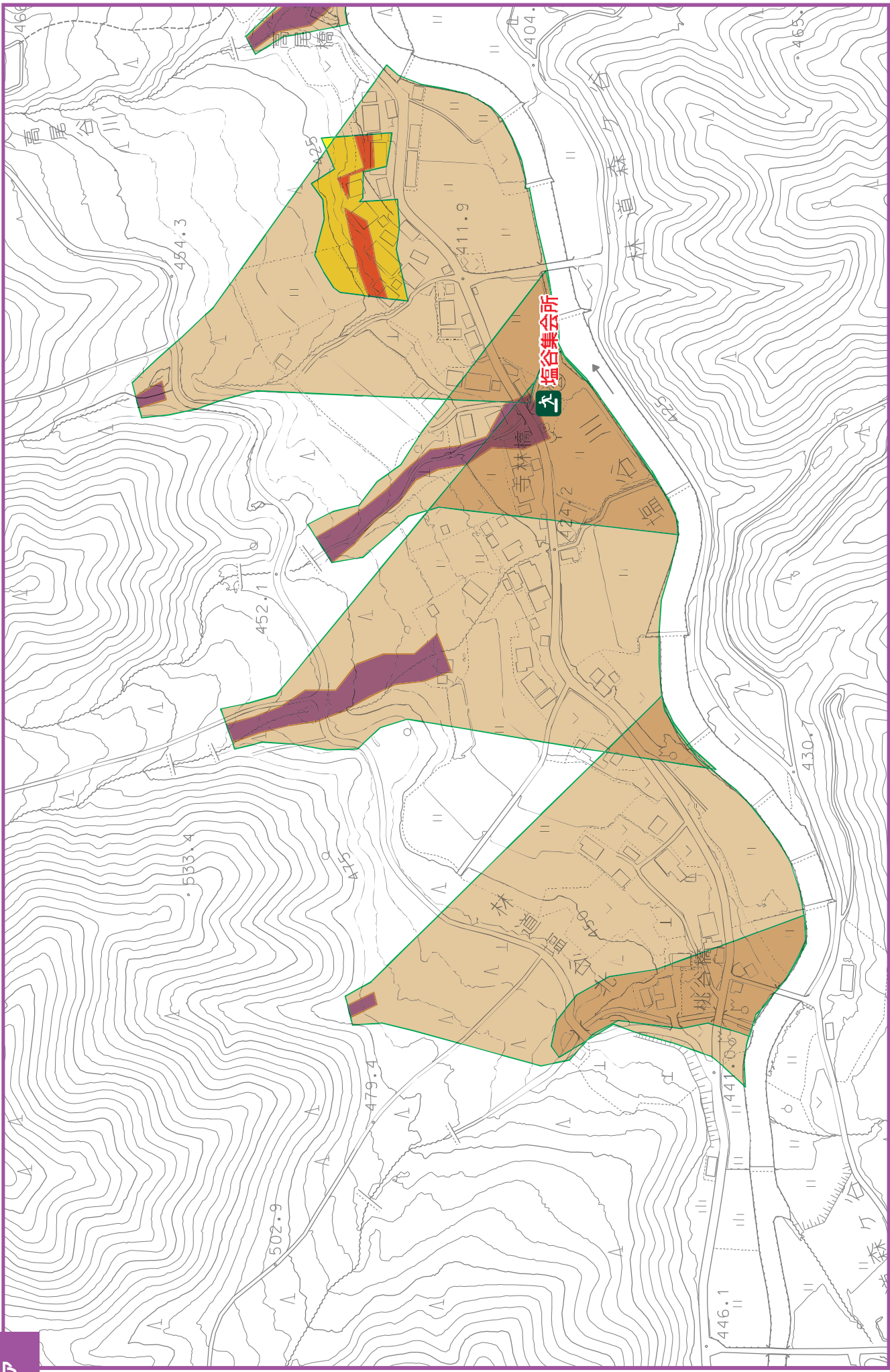


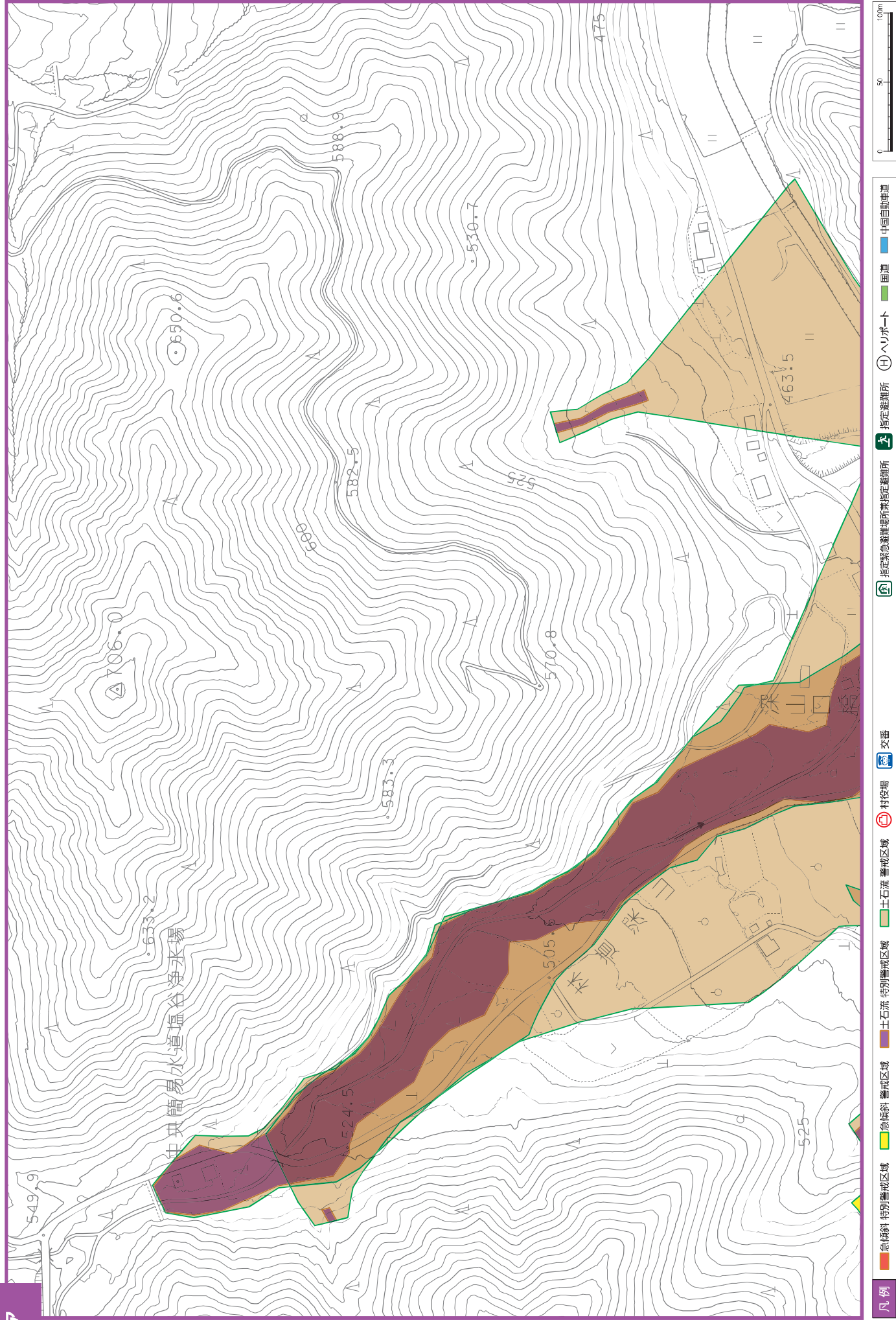


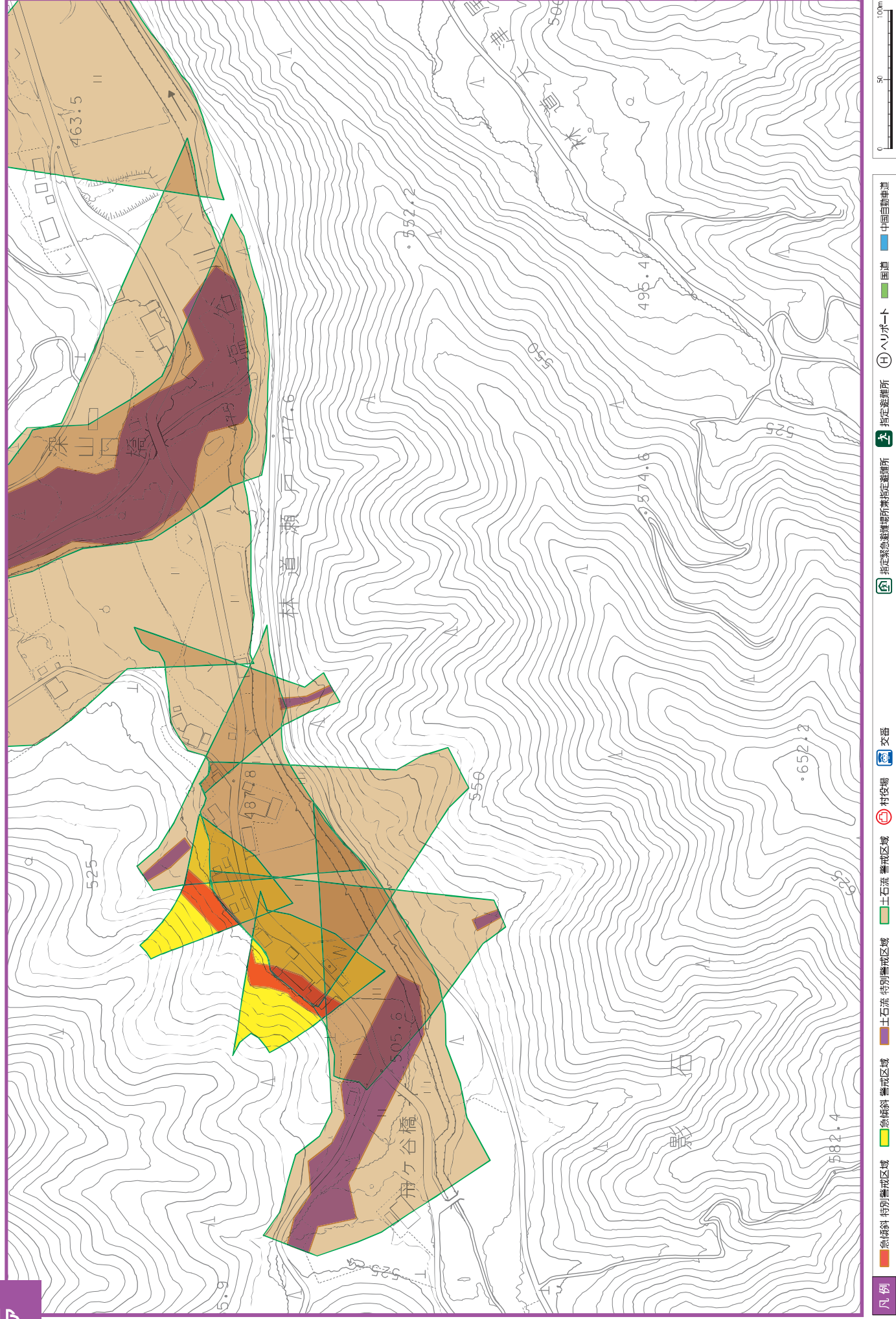






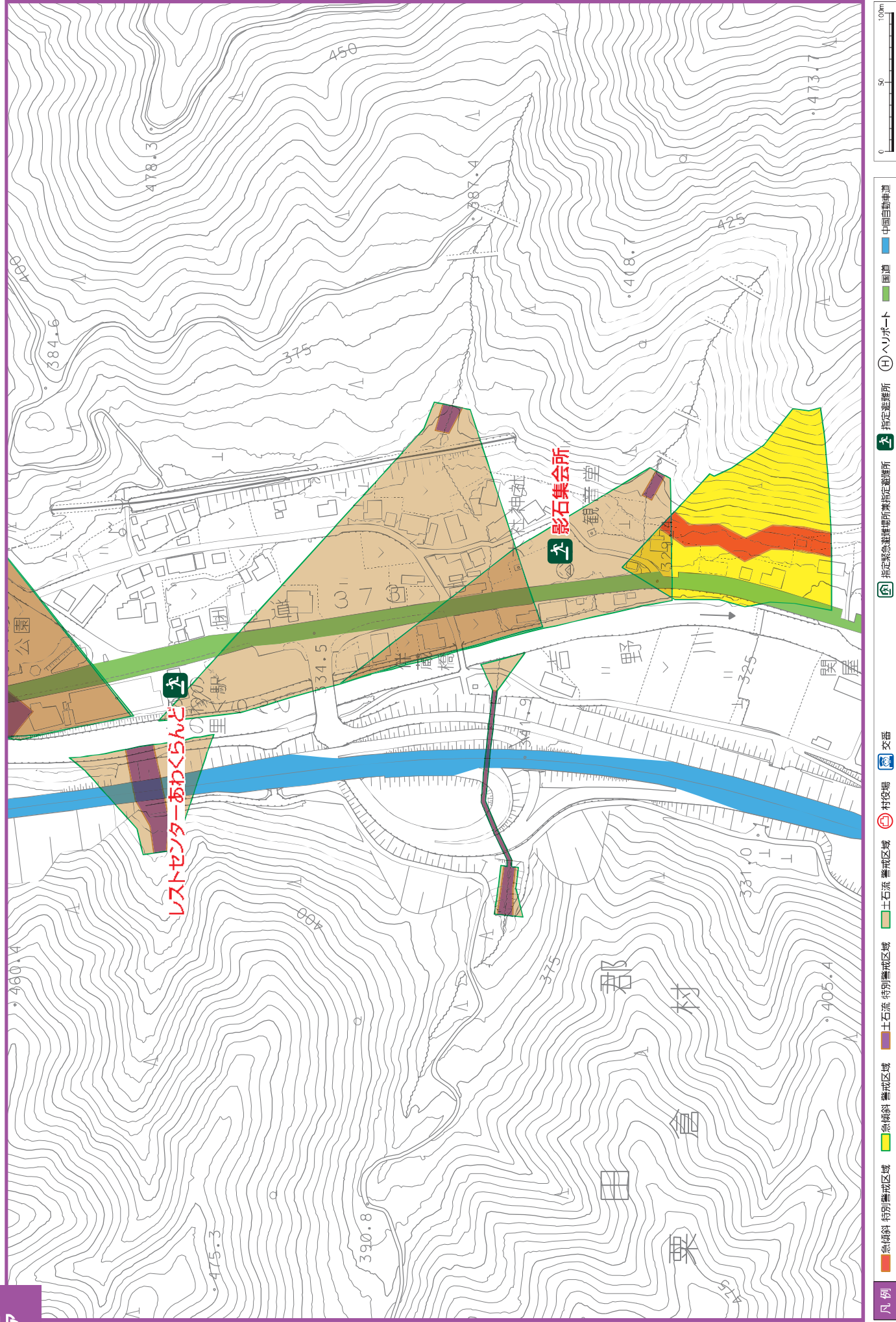


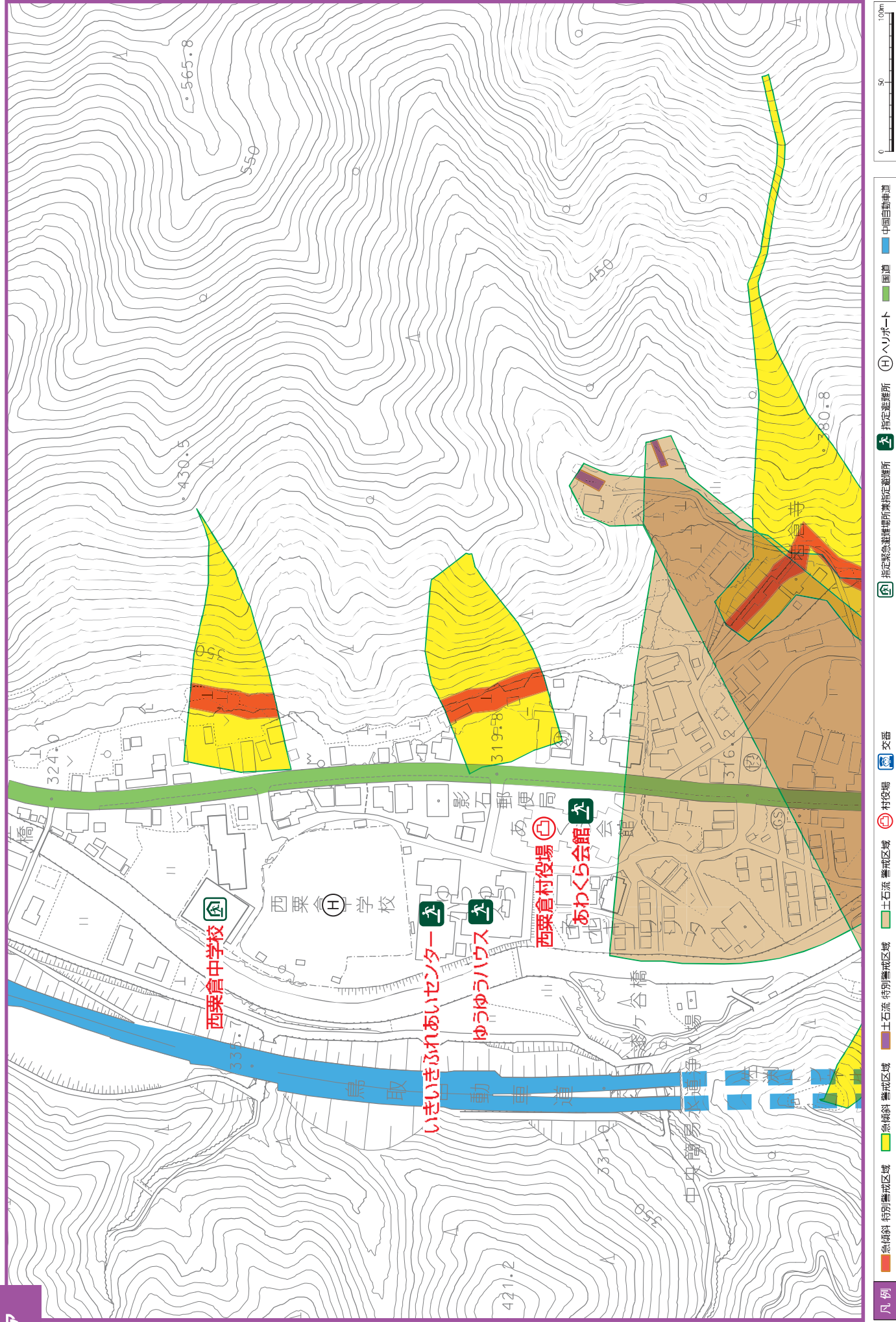




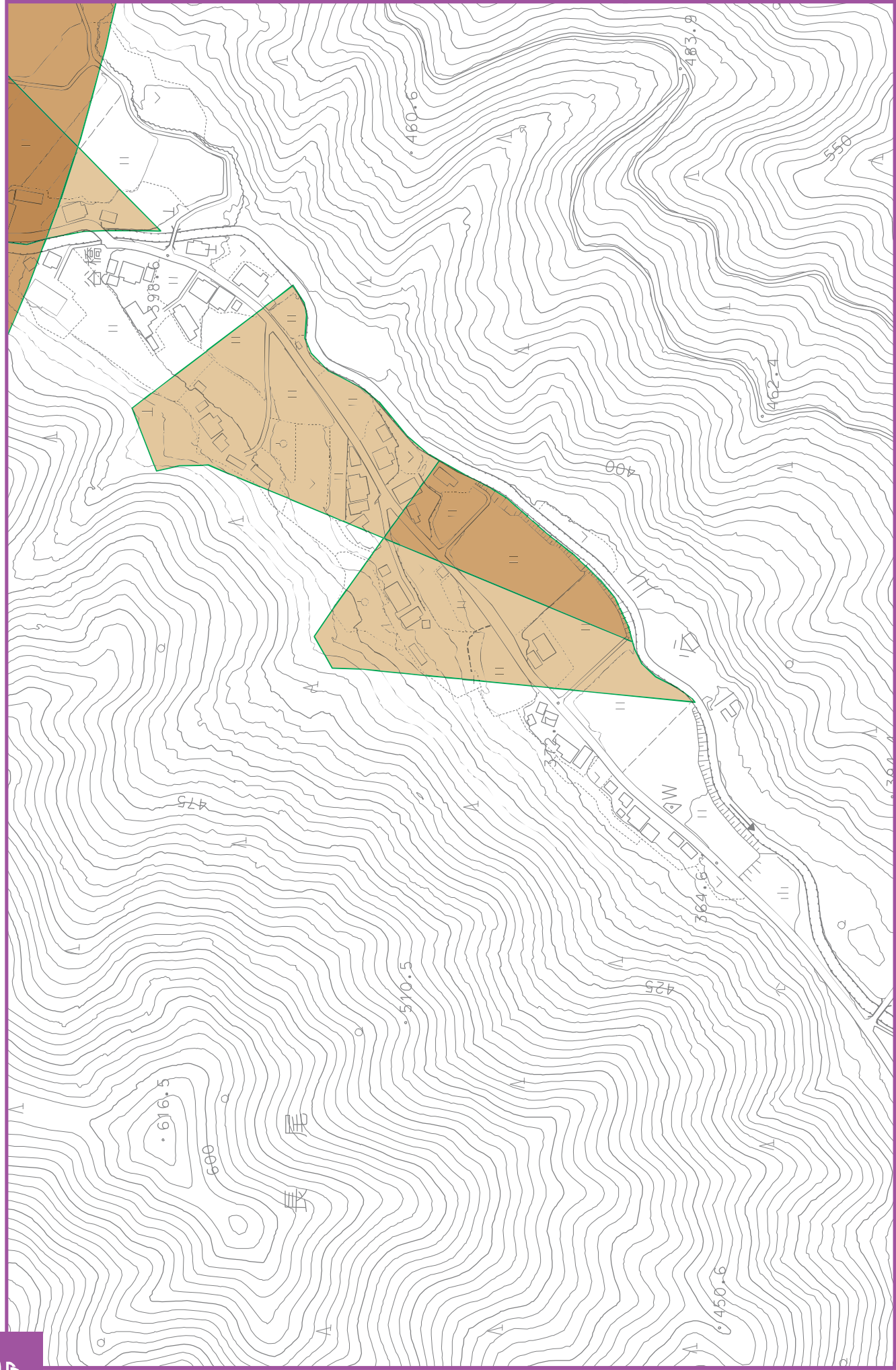


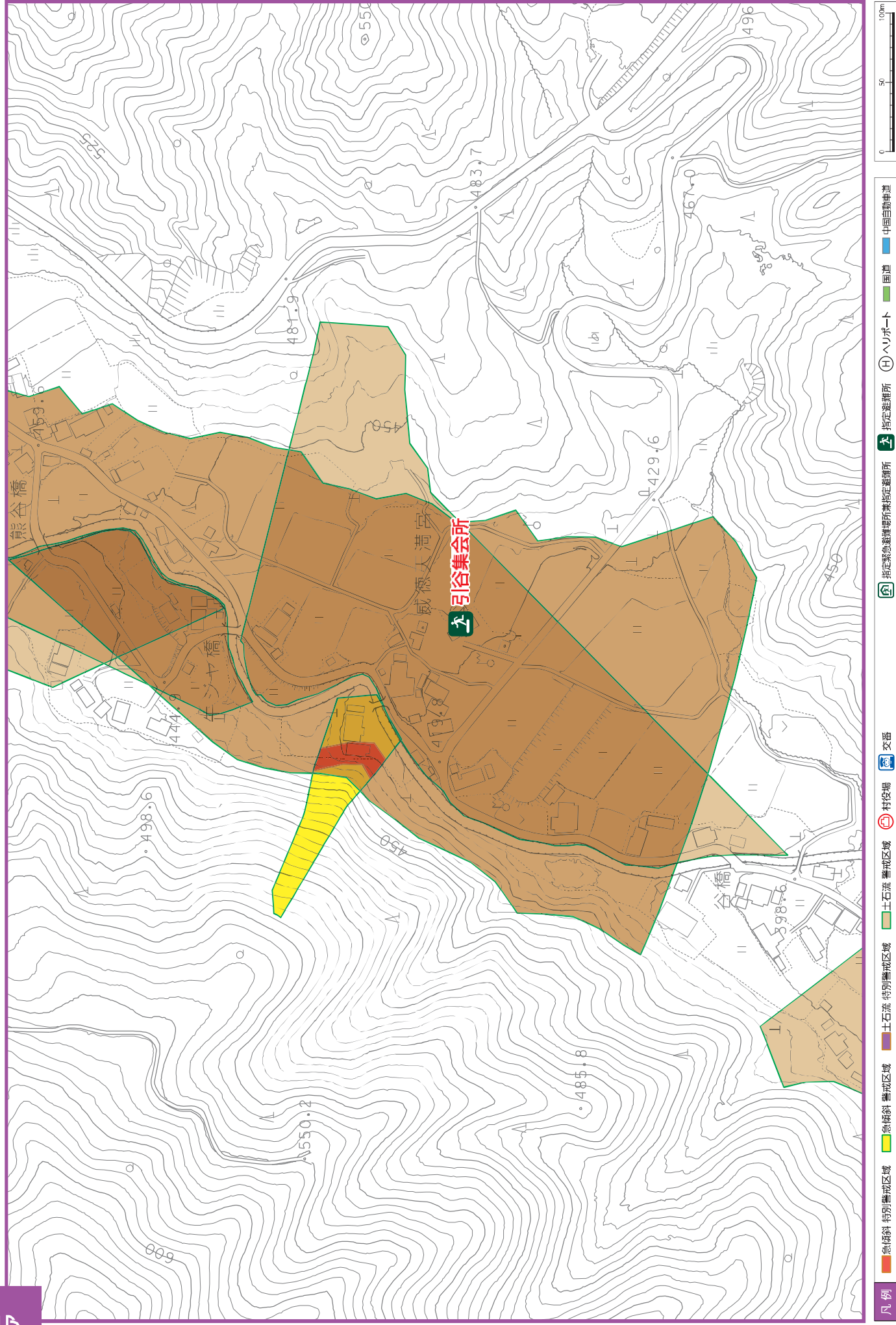


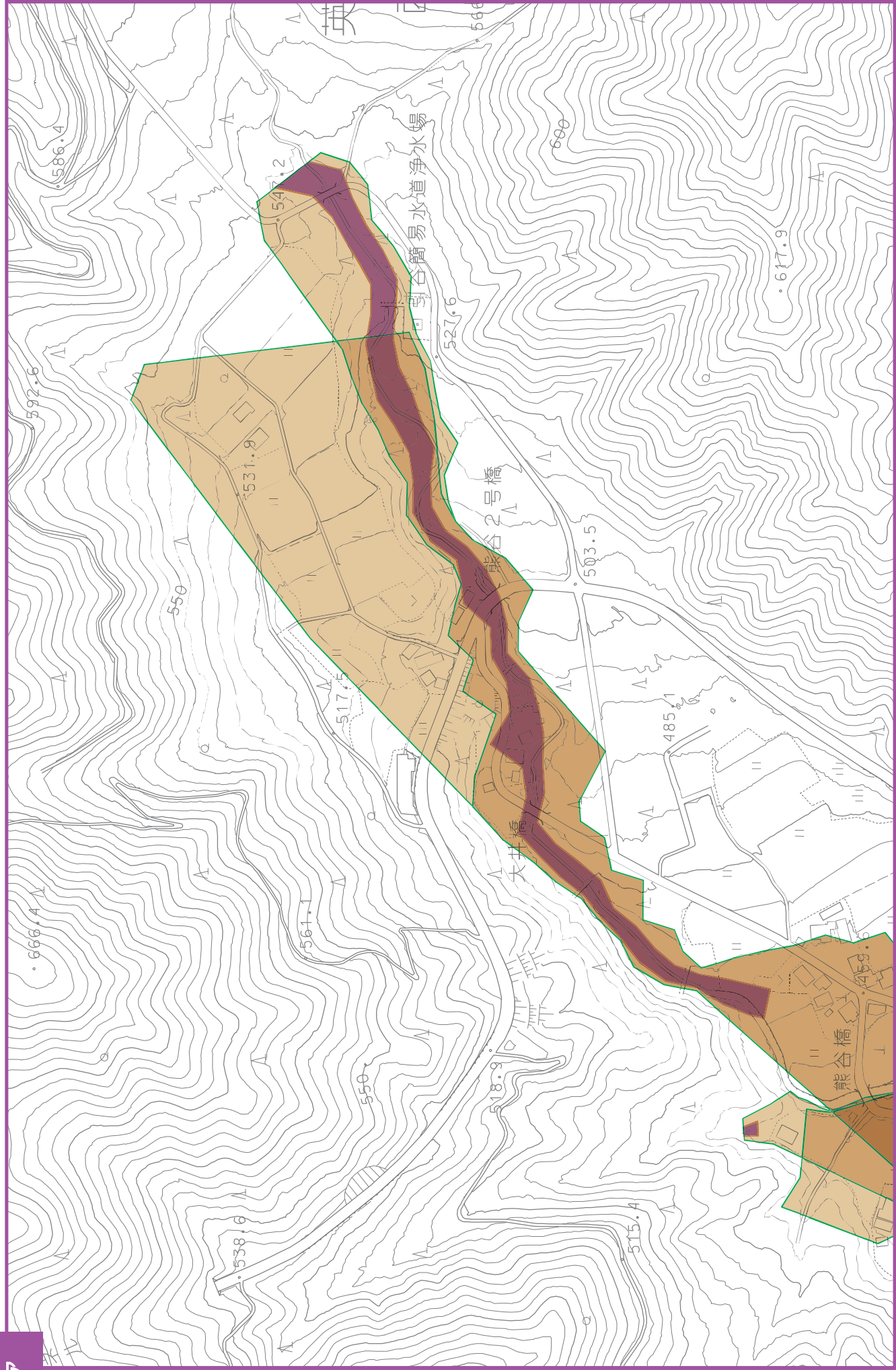


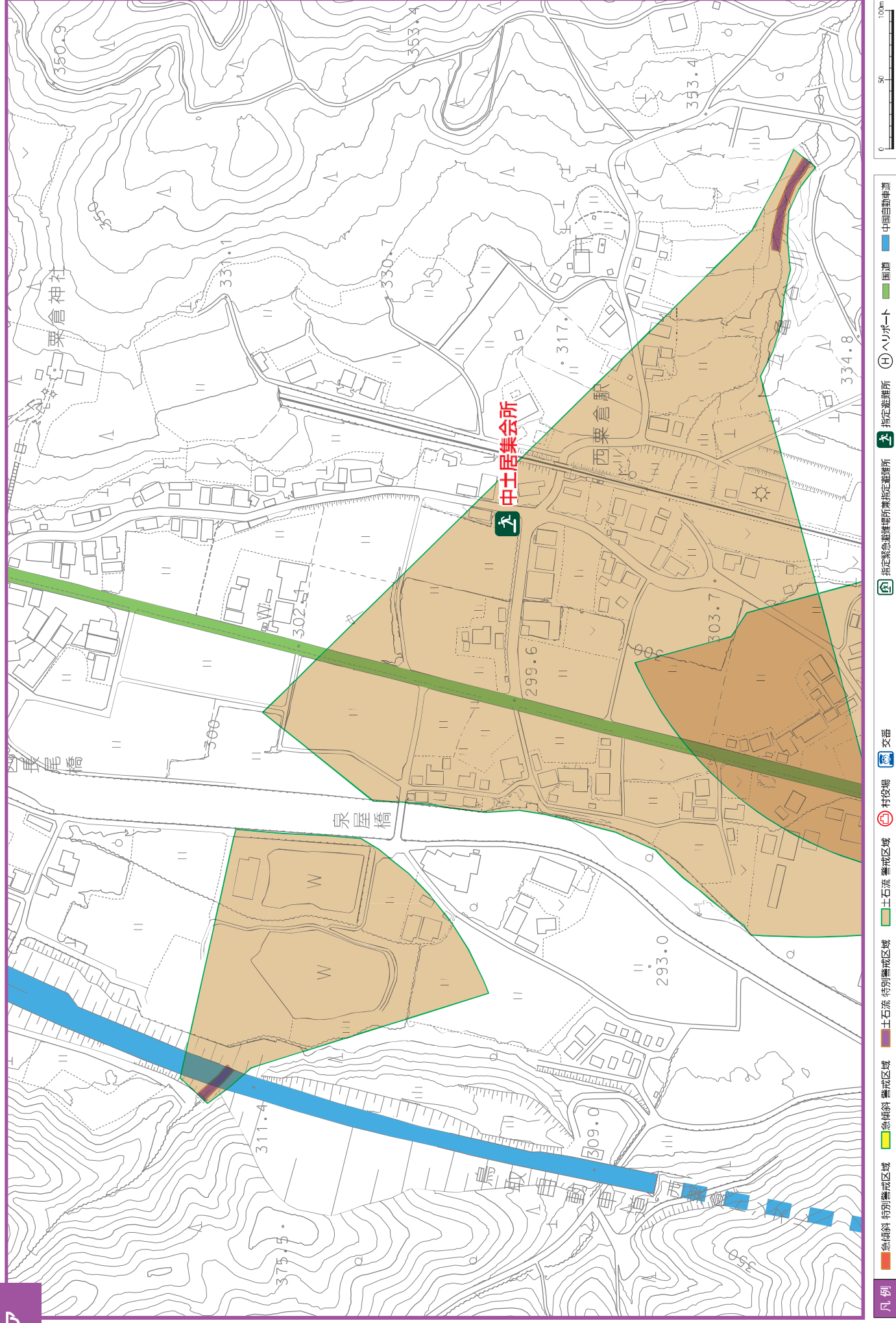


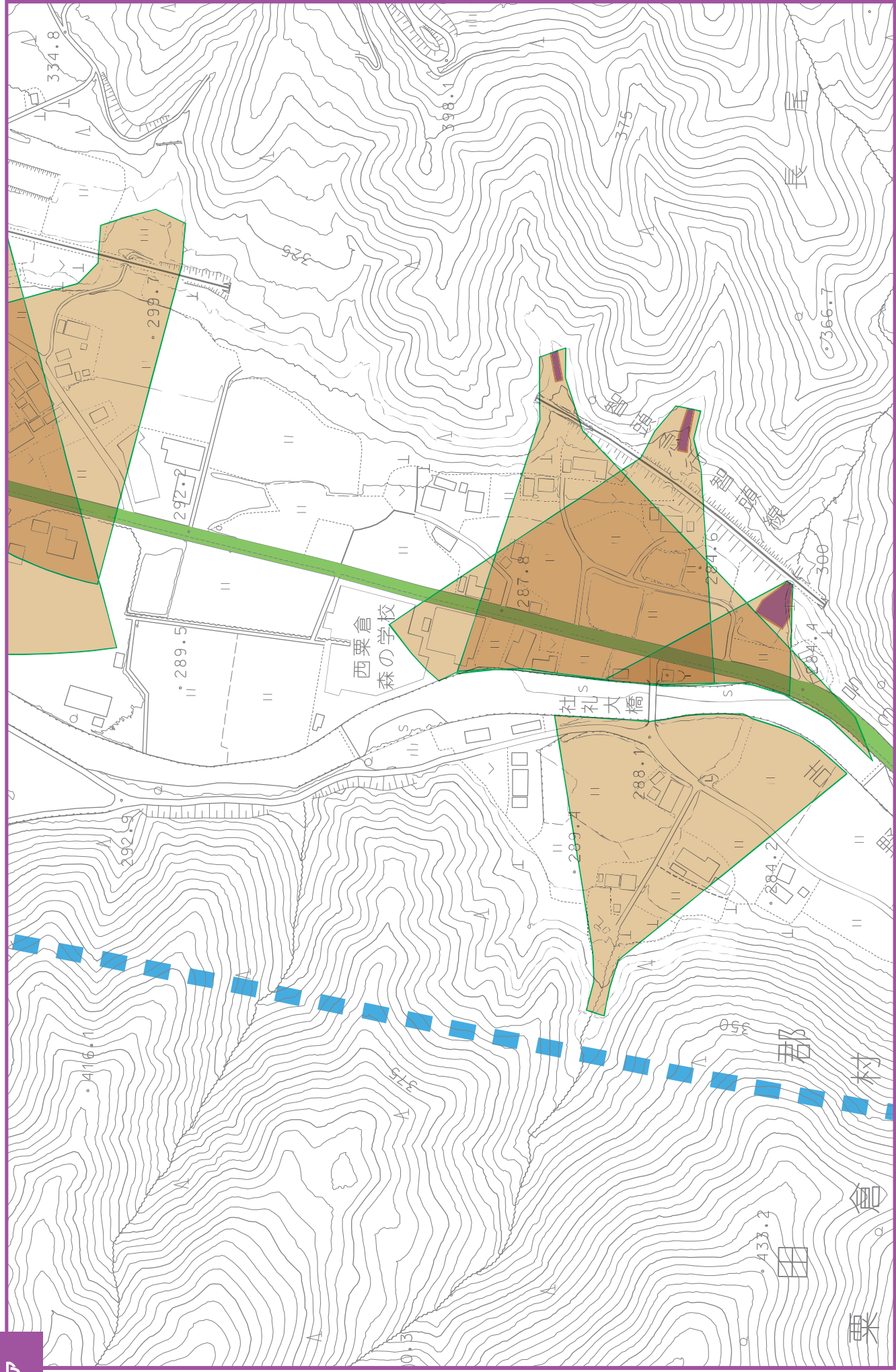








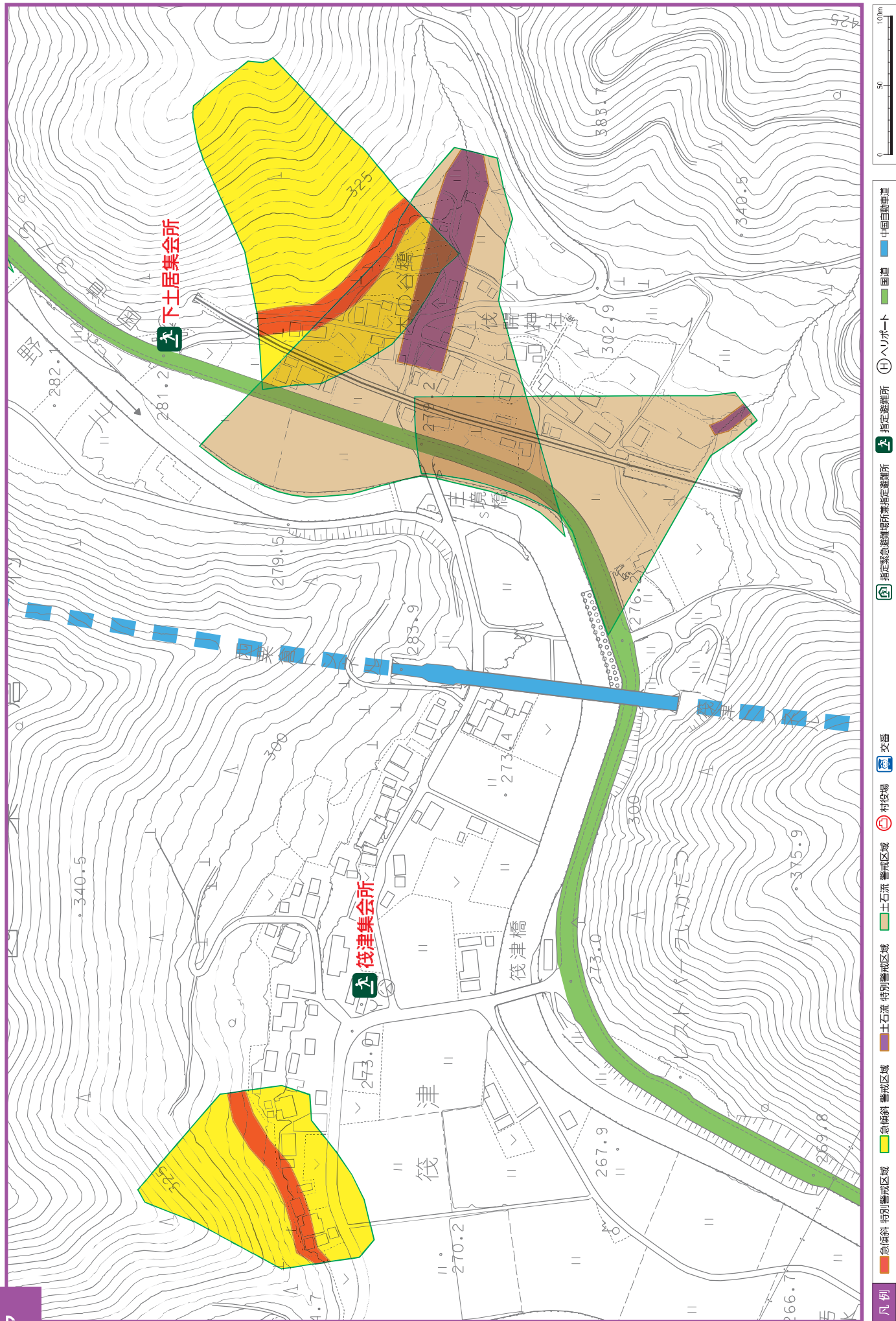


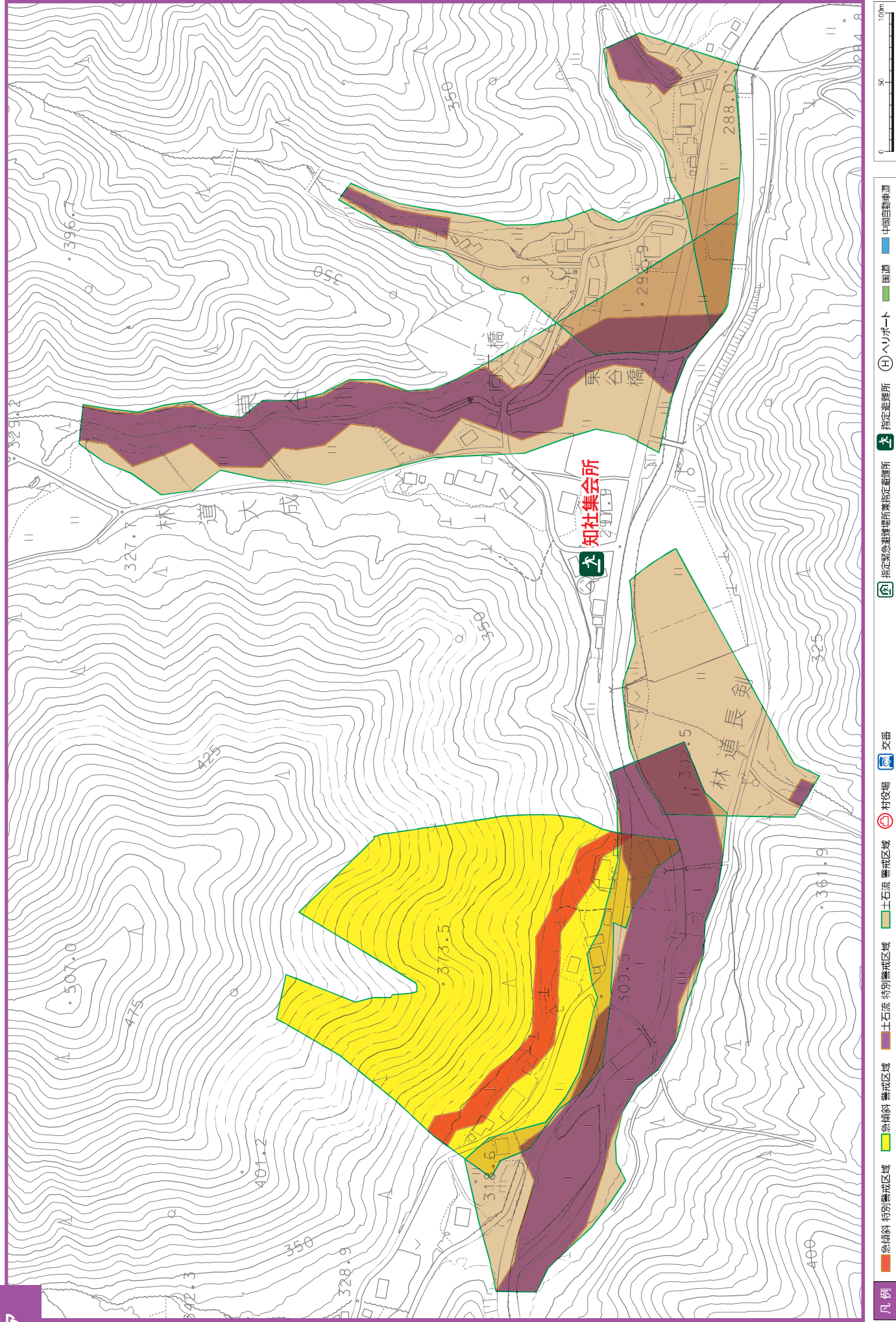


凡例

- 急傾斜 特別警戒区域
- 急傾斜 警戒区域
- 土石流 特別警戒区域
- 土石流 警戒区域
- 村役場
- 交通
- 指定緊急避難場所指定避難所
- 指定避難所
- ヘルポート
- 国道
- 中国自動車道

0 50 100m







家族と話そう！ 日頃からの備えと確認事項

①非常持ち出し品の確認

避難所で2〜3日間過ごすことを考え、それぞれが必要なものを持ち出せるようにしておきましょう。

- ☐ 飲料水 (1人1日3リットルが必要と言われています)
- ☐ 食料 (普段から食べ慣れているものがおすすめです)
- ☐ 簡易トイレ (水道が止まると水洗トイレは利用できません)

必ず準備・
備蓄を!!

- ☐ 衣類・メガネ・コンタクトレンズ
- ☐ 絆創膏や常備薬・常備薬等の医薬品
- ☐ 洗面用具・石けん・アルコール消毒液
- ☐ 懐中電灯・ヘッドライト
- ☐ 携帯電話の充電器
- ☐ マスク・ビニール手袋・スリッパ (感染予防に)
- ☐ 体温計 (今後、避難所で定期的な体温測定が必要があります)
- ☐ マットやブランケット等
- ☐ 携帯用の緊急連絡カード
- ☐ 現金 (停電時は電子マネーやクレジットカードは使用できなくなります)
- ☐ 通帳や印鑑等の貴重品
- ☐ ラジオ
- ☐ 防犯ブザー・ホイッスル
- ☐ カッターナイフ・ハサミ等の刃物
- ☐ トランプ等の娯楽品
- ☐ その他 ()

非常持出品として必要なものは、家族構成や年齢、性別により異なります。自分に必要なものは何か、考えて準備しましょう。

- | 【乳幼児】 | 【女性】 | 【高齢者(要介護者)】 | 【障がい者】 |
|------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|---|
| ☐ 粉ミルク・ほ乳ビン | ☐ 生理用品 | ☐ 介護手帳 | ☐ 障害手帳 |
| ☐ 離乳食 | ☐ くし・ブラシ | ☐ 介護用品 | ☐ ホイッスル |
| ☐ タオル類 | ☐ 鏡 | ☐ 入れ歯 | ☐ 杖・白テープ・おんぶ紐 |
| ☐ 紙おむつ | ☐ 化粧品 | ☐ 補聴器 | ☐ お気に入りのグッズ (持っている安心できるもの) |
| ☐ おしりふき・清浄綿 | ☐ 髪ゴム | | ☐ 要介護者であることを確認できるもの (ヘルプマークなど) |
| ☐ だっこ紐 | | | |
| ☐ 母子手帳 | | | |



②避難先・避難経路の確認

非常時は冷静な判断をする余裕がないため、あらかじめ、どこに避難するのか、どのルートを通るのか、確認しておきましょう。避難するよりも自宅の方が安全という場合は、自宅避難という選択肢もあります。自力での避難が困難な場合は、誰にどうやって移動をお願いするか決めておく必要があります。また、近所に自力での避難が困難な方がいないか、この機会に確認しましょう。

- ☐ 避難先と経路 (または自宅避難をすること) を決めているか
- ☐ 避難経路上に危険な区間はないか (ハザードマップを参照ください)
- ☐ 近所に声かけや一緒に移動をする必要がある方はいるか



③非常備蓄品の確認

自宅で3〜7日間、無補給で過ごすことを考え、それぞれが必要なるものを準備しておく必要があります。

- ☐ 飲料水
- ☐ 食料 (保存のきくものや、そのまま食べられるものを、ローリングストック法*で備蓄)
- ☐ 簡易トイレ

*ローリングストック法: 日常的に非常食を食べ、消費したら買い足す行為を繰り返し、常に非常食を備蓄する方法。

- ☐ ラップ・アルミホイル
- ☐ カセットコンロ・カセットボンベ
- ☐ ティッシュ・トイレットペーパー
- ☐ ウエットティッシュ・除菌スプレー等衛生用品
- ☐ ヘルメット・レインコート (避難時に使いやすい位置に保管)
- ☐ 軍手
- ☐ 充電式電池
- ☐ タオル
- ☐ 新聞紙
- ☐ ポリ袋
- ☐ 風呂敷
- ☐ 使い捨てカイロ
- ☐ 保冷剤 (停電時に使用)
- ☐ その他 ()

必ず準備・
備蓄を!!

④家族間での情報共有や緊急時連絡先の確認

非常時の行動については家族間での共有が大切です。一人暮らしの方も、避難を行ったことを誰かに伝えておく必要があります。

- ☐ 非常時の行動について家族との共有
- ☐ 避難時の連絡先
- ☐ 避難方法
- ☐ 避難を行ったことの連絡先 ()
- ☐ 避難先と避難経路
- ☐ 非常持出袋の場所と中身
- ☐ 連絡先避難先一覧を非常持出袋に入れておくか

事前・災害時の情報収集

村・県の防災情報

西栗倉村を含む、岡山県全域の災害による被害の防止や軽減などのために必要な気象情報などを提供しているwebサイトです。



おかやま
防災ポータル



おかやま
全県統合型GIS

テレビ(dボタン)

テレビのdボタンを押せば、データ放送を通して災害情報や避難所開設状況、ライフラインなどの情報を見ることができます。



気象庁

雨雲の動きなど天気をリアルタイムで表示するほか、気象防災に関する各種情報が掲載されています。



おかやま防災情報メール

気象台が発表する大雨、洪水等の警報、注意報や、県内で観測された雨量、河川水位、潮位など最新の防災情報が配信されるサービスです。



村ウェブサイトやアプリ

村ウェブサイトやフェイスブック、アプリなどで災害情報を確認できます。



webサイト



フェイスブック



西栗倉村
防災ポータル

FM告知機

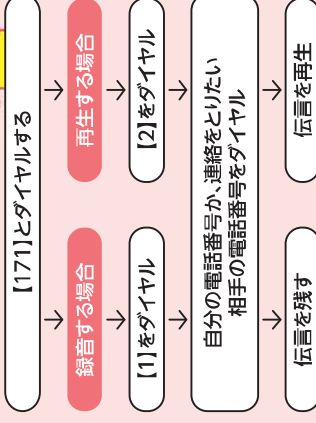
全世帯に無償貸与しているFM告知機では、防災行政無線で放送していた防災情報(火災放送、気象警報・定時チャイム)を合わせて放送しています。



安否確認

災害用伝言ダイヤル171

災害時、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。伝言の録音・再生で安否などを確認できます。



災害用伝言板 (携帯電話会社提供)



登録された安否情報が携帯電話やスマートフォンなどを通じて、全世界から確認できる災害時専用のサービスです。

災害用音声お届けサービス

大規模な災害時に音声メッセージで安否情報を届けるサービス。メッセージが録音されるとSMSで知らせが届きます。



手順

- ①送信者が音声メッセージを送信
- ②受信者にメッセージ受信の通知(SMS)
- ③受信者がメッセージをダウンロードし再生
- ④送信者にメッセージ確認の通知(SMS)

災害用伝言板 (web171)

インターネットを利用して安否情報を確認する手段。パソコンやスマートフォンなどから固定電話や携帯電話・PHSの電話番号を入力して安否情報(伝言)の登録、確認ができます。



<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/>

web171

検索



消えないように、油性マジックで記入しましょう!

家族との連絡方法

名前
電話
メール
その他

名前
電話
メール
その他

名前
電話
メール
その他

名前
電話
メール
その他

緊急時の家族の避難(集合)場所

地震のとき

【行き先などを残すメモの場所】

水害のとき

困ったときの連絡先

名前
電話
メール
その他

名前
電話
メール
その他

名前
電話
メール
その他

防災に関する窓口

西栗倉村役場 総務企画課 0868-79-2111

身体の不自由な方、
高齢者の方のご相談

西栗倉村役場 保健福祉課 0868-79-2233